～建設業から農業へ参入し、地域の活性化に取り組む～

稲武といえばブルーベリー

杉田組（豊田市稲武地区）　杉田雅子さん
ブルーベリー

【平成21年８月11日掲載】

　岐阜、長野県境に近い豊田市の北玄関に当たる稲武地区で、昨年ブルーベリー狩り園「ブルーベリーのこみち」をオープンした地元の建設業者「杉田組」（社長　杉田昌巳氏）を紹介します（写真1）。

写真1　杉田組　杉田雅子さん

１　ブルーベリー事業部の担当は社長の奥さん

　「杉田組」は、農業生産法人以外の法人が農用地を利用できる特定法人貸付事業を活用し、農業へ参入されました。ブルーベリー事業部の担当は社長の奥さんである杉田雅子さんで、もともと経理担当でしたが、この担当に抜擢されました。建設業から農業への参入のおもな動機は、工事量の減少に対する雇用の維持と中山間部での遊休農地の解消です。
　建設業から農業への参入も珍しいことですが、さらに驚かされたのが、社長も雅子さんも、ともに農業経験がまったくないということでした。
　雅子さんは平成１７年４月に就農し、遊休農地を利用して、土壌改良などのほ場準備や、ブルーベリーの植え付け管理を行いました。
　観光農園の規模としては７０a、１，２００本植え付けられ、他に出荷園として１，０００本分のほ場があります。また杉田組と地元の栽培家族１1世帯で組織する「稲武ブルーベリー倶楽部」が４，３００本栽培してい

ます（写真2）。
　ブルーベリー担当の社員は、橋本千晶さん。橋本さんは農学系大学の出身で、朝早くから作業をおこない、ひと粒ひと粒に愛情を込めてブルーベリーを生産しています。（写真3）。
生果の販売はすべて直売、農園併設の「マコのお店」で売っています（写真4）。

写真2　収穫間近のブルーベリー

写真3　ほ場の様子と作業風景

写真4「マコのお店」外観と店内の様子

２　ブルーベリー栽培、加工技術について

栽培技術については、農業改良普及課、農業総合試験場と連携を取りながら、平成１7年からは日本ブルーベリー協会の玉田孝人先生により、土壌改良、品種の選定など基本技術指導を受けています。また「稲武ブルーベリー倶楽部」でも玉田先生を招き、勉強会を実施し、栽培技術の向上を図っているそうです。

加工技術については、自ら技術を習得し、加工の先生にもアドバイスを受けながら、直売所で販売するジャムやソースの加工は全て自社で行っています（写真5）。

また平成２１年４月に稲武地区のブルーベリーを通したまちおこしが、中小企業庁の「全国展開支援事業」に採択され、地元の商工業者が参加し、ブルーベリーを使った、すし、うどん、和菓子などの商品開発を行っています。

３　ブルーベリーにかける夢

雅子さんは、いつの日にか「稲武といえばブルーベリー。ブルーベリーといえば稲武」と言われるようになり、町に賑わいが戻ってくることを夢見ているそうです。 さらに、平成２２年には、加工施設の建設も計画されています。
雅子さんは、稲武地区のブルーベリーに関わるたくさんの人達とともに、農業を本当に楽しんでいる様子でした。

執　　筆：農業経営課
取材協力：豊田加茂農林水産事務所 農業改良普及課

Copyright © 2009, Aichi Prefecture. All right reserved.